

図書館展示計画委員会報告

平成15年度は、春季および秋季の2回特別展を開催した。

春季特別展

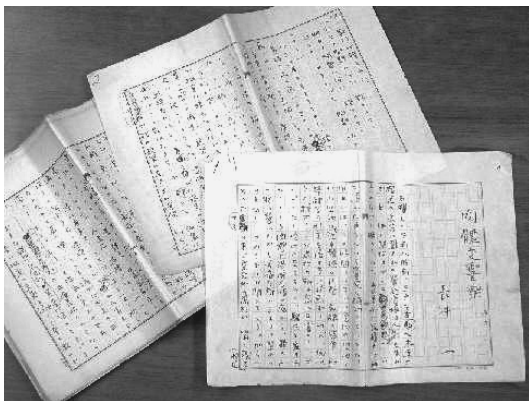
「大阪文藝 長沖一展」

平成15年4月1日(火)～5月18日(日)

関西大学図書館では、特色あるコレクションとして長年にわたり「大阪文藝資料」を収集してきた。これは明治以降の上方（大阪）にゆかりのある作家・画家・芸能人等の作品を中心に集めたものであるが、このコレクションの中で、長沖一ゆかりの資料は自筆原稿、台本、各種初版本など、質量ともに内容が充実しているもののひとつである。

長沖一といえば、まだテレビが普及しておらず、ラジオが茶の間の主役であった時代に記録的な面白いブームを巻き起し、数々の流行語を生んだ放送作家であるが、帝塚山学院短期大学学長の要職をも勤めあげた教育研究者でもあった。

今回の展示では、昭和5年除隊後に中央公論の求めで書きあげたものの軍隊批判の内容であったため出版されなかった幻の小説『肉體交響樂』の自筆原稿や、大阪高等学校在学中に藤澤桓夫らと出版した同人誌『花冠』『辻馬車』、昭和16年応召で出征する前に、織田作之助、秋田實、藤澤桓夫らがしたためた寄せ書き、台本、書簡、色紙などを出展した。小説家であり学者でもあった長沖一の「人」と「作品」の魅力を充分に感じ取っていただける展示になったのではないかと思います。



『肉體交響樂』

秋季特別展

「江戸・明治初期の占書展

- 庶民の生活の中の占い - 」

平成15年11月6日(木)～12月13日(土)

記念講演会

演題 「今でも使われている運勢暦と大雑書の中の占い

その仕組みを知っていますか 」

講師 文学部教授 坂出 祥伸

日時 11月29日(土) 13:00～14:30

会場 総合図書館3階 図書館ホール

本学図書館には江戸・明治時代の占い書が100点以上所蔵されており、その内容は実に多種多様である。

和刻されて大きな影響を与えた『神相全編』や、人相書として最も有名で、今では現代語訳まで出されている『南北相法』、中国の伝統的な家相書・風水書の影響を強く受けている『家相秘伝集』、方位占や選日を暦注に載せた『伊勢暦』、また鬼門・金神・大將軍・暗剣殺・大歳・九星などのおなじみの方位占が載せられている『三元秘用方鑑図解』や、江戸時代に生活日用百科として重宝され、先勝・友引・仏滅などの六曜星日取や鬼門等の占いを記載している「大雑書」など、合計約40点の資料を家相・人相などの相書、五行易、九星占、遁甲術、大雑書、暦に分けて展示した。

なお、記念講演会では文学部の坂出祥伸先生を講師に迎え、当時の庶民の生活や代表的な資料について、貴重なお話をうかがうことができた。



『南北相法』